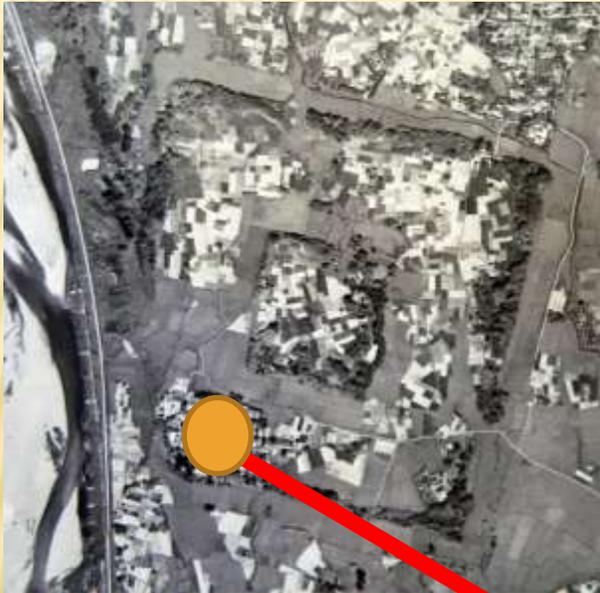


# 神指城と会津の新選組



宇都宮城の4月23日の戦い後、幕府軍と新選組は日光に留まります。そして、土方歳三らは山王峠、田島に入り、若松城下に留まります。湯治した東山温泉の不動の湯。現「不動滝」。

8月23日滞在した大塩裏磐梯温泉



昭和38年の神指城

4月20日から新政府軍の攻撃が白河城で開始されます。5月1日から7月15日の白河城の戦いで新選組は白河の脇本陣を本拠として戦います。敗戦後、郡山市湖南町福良の本陣に入り、福良の龍伏寺で傷を癒しました。新政府軍の侵攻とともに、母成峠へ向い、8月21日戦います。斎藤一は東側の勝岩の方面を守備していましたが敗戦、その日は、秋元原に逃れ、その後二方向に分かれ、天寧寺へ向ったものと喜多方市塩川町へ向った者がいました。8月23日には、塩川町で部隊が合流します。さらに北塩原村の大塩裏磐梯温泉に行き、箱館に向う者と会津の残る斎藤一らに分かれます。9月1日には、大鳥圭介隊とともに喜多方市山都町小布瀬に到着、翌日同町の陣ヶ峰で戦い、3日と4日は同町の長窪で戦いますが敗戦します。3日には、会津若松市の神指城のある如来堂から衝鋒隊が北方の喜多方市小荒井へ応援に向います。新選組は、山都で敗戦したことから、衝鋒隊の基地があった如来堂へ戻ろうと向いました。9月5日、神指城の如来堂で、待ち伏せしていた新政府軍に取り囲まれ13人が戦います。ほとんど戦死しませんでした。斎藤一はこの時に降伏し、捕まった者は越後の高田藩に送られ、捕まらず逃げた者は田島へ行きました。文責 石田明夫

天寧寺にある近藤勇の墓



滞在した福良本陣跡



9月5日、神指城の如来堂で戦う

